

24. 転倒リスク軽減におけるカメラセンサーの有用性

介護老人保健施設 南部花園館

介護福祉士 井上涼介（いのうえ りょうすけ）

共同発表者 田中俊行 武縄桂子

はじめに：介護施設における利用者の安全管理は非常に重要である。しかしながら慢性的な職員数不足の問題を抱えている施設は多く、高齢者の残存機能を維持しながらの適切な見守り実施は困難であり転倒転落事故の発生に繋がりがやすくなっている。

目的：カメラセンサーを導入することで遠隔でも見守りが実施でき異変を察知すればすぐ駆け付けることで転倒・転落事故を未然に防ぐことができる。この有用性を考察することで適切な対象者の選定に繋げることが出来る。

対象：A氏 男性 91歳 自立度 B2 要介護 3 既往歴は脳梗塞（麻痺なし）糖尿病 排泄は日中トイレ誘導（失禁や自尿あり）、夜間は定時でおむつ交換（尿意便意なし）

詰所から居室までの距離は約 20m

経過：入所時よりセンサーマット使用しており日中は車椅子自操で廊下を周回するなど自発的な動きがあるので所在確認に努めた。ベッドサイドのセンサーマットは24時間 ONにし、反応あればすぐに訪室し安全確認を行った。

夜間は巡視を時間毎に行いベッドサイドに車椅子を横付けして自己移乗出来るように環境設定した。この間のヒヤリハットの報告書は、居室転倒6件、食堂での転倒1件、他利用者の車椅子を押して歩いていた転倒未遂1件、理由不明の皮下出血5件であった。上記報告書以外にも、危険な行為が度々みられた。

R5年3月中旬よりカメラセンサーを施設で導入することになりA氏に使用した。

結果：カメラセンサー設置後の反応の詳細は、(1ヵ月間の日勤帯と夜勤帯で) ベッド端座位56件、起き上がり32件、自己移乗4件、立ち上がり1件、ベッド上での足組み26件であった。

センサーが反応した段階で訪室確認することで、転倒や転落は未然に防げた。

考察：マットセンサーでは、端座位か転落か判断できず、訪室してもすでに転落していた。転落してなくとも行動が早く歩きだしており、危険を未然に防ぐのは難しかった。

カメラセンサーは、端座位・起き上がりも感知するため、アラームが鳴って訪室しても未然に防げた。また、画面で足を組んだり手を挙げたりカーテンを触るだけなのか、起き上がり端座位になろうとしているのか、確認できるため次の動きを予測して転落を未然に防ぐことができた。

マットセンサーでは、行動が早く対応が難しい利用者には、カメラセンサーが有用であり今後にも生かしていきたい。